

目次

I 章 はじめに		
1 ガイドライン作成の経緯と目的	2	
1. 2010年版ガイドライン作成の経緯	2	
2. 2014年版ガイドライン改訂の経緯	3	
3. ガイドラインの目的	4	
2 ガイドラインの使用上の注意	5	
1. ガイドラインの使用上の注意	5	
2. ガイドラインの構成とインストラクション	6	
3. 日本緩和医療学会の他の教育プログラムとの関連	7	
3 推奨の強さとエビデンスレベル	8	
1. エビデンスレベル	8	
2. 推奨の強さ	9	
3. エビデンスレベルと推奨の強さの臨床的意味	10	
4 用語の定義と概念	12	
II 章 背景知識		
1 がん疼痛の分類・機序・症候群	18	
1. 痛みの性質による分類	18	
① 体性痛	19	
② 内臓痛	19	
③ 神経障害性疼痛	20	
2. 痛みのパターンによる分類	23	
① 持続痛	23	
② 突出痛	23	
3. 痛みの臨床的症候群	25	
① がんによる痛みの症候群	26	
② がん治療による痛みの症候群	27	
2 痛みの包括的評価	29	
1. 痛みの原因の評価	29	
① 身体所見	29	
② 画像所見	30	
2. 痛みの評価	31	
① 日常生活への影響	31	
② 痛みのパターン	31	
③ 痛みの強さ	32	
④ 痛みの部位	34	
⑤ 痛みの経過	34	
⑥ 痛みの性状	34	
⑦ 痛みの増悪因子と軽快因子	34	
⑧ 現在行っている治療の反応	34	
⑨ レスキュー薬の効果と副作用	34	
⑩ 患者の痛みや痛みの治療に関する心理社会的な評価	35	
3 WHO 方式がん疼痛治療法	37	
1. WHO 方式がん疼痛治療法とは	37	
2. 目標の設定	37	
3. 鎮痛薬の使用法	38	
① 経口的に (by mouth)	39	
② 時刻を決めて規則正しく (by the clock)	39	
③ 除痛ラダーにそって効力の順に (by the ladder)	40	
④ 患者ごとの個別的な量で (for the individual)	40	
⑤ その上で細かい配慮を (with attention to detail)	40	
4. WHO 方式がん疼痛治療法の有効性と課題	41	
4 薬理的知識	42	
① オピオイド	42	
1. オピオイドとは何か—薬理学的特徴	42	
① オピオイドとは	42	
② オピオイド受容体の構造と情報伝達	42	
③ オピオイド受容体を介した薬理作用	43	
2. 国内で利用可能なオピオイドとその特徴	44	
① 製剤の特徴	44	
3. 投与経路の変更	48	
① 経口投与	48	
② 直腸内投与	48	

③ 経皮投与	48	② 薬理学的基盤	70
④ 持続皮下注	48	③ 臨床	72
⑤ 持続静注	49	2 非オピオイド鎮痛薬	74
⑥ 筋肉内投与	49	1. 非ステロイド性消炎鎮痛薬 (NSAIDs)	74
⑦ 経口腔粘膜投与	49	① 薬理学的特徴	74
4. オピオイドスイッチング	49	② 副作用	75
① オピオイドスイッチング	49	2. アセトアミノフェン	76
② オピオイドスイッチングの実際	50	① 薬理学的特徴	76
5. 換算表	50	② 用法・用量	77
6. 各オピオイドの薬理学的特徴	51	③ 副作用	77
① 麻薬性鎮痛薬	51	3 鎮痛補助薬	78
② 麻薬拮抗性鎮痛薬	55	1. 鎮痛補助薬の定義	78
7. 特殊な病態でのオピオイドの選択	56	2. 鎮痛補助薬の概要	78
① 腎機能障害	56	3. 各鎮痛補助薬の特徴	78
② 透析	56	① 抗うつ薬	78
③ 肝機能障害	57	② 抗けいれん薬	80
8. オピオイドによる副作用と対策—消化器系の副作用と対策	57	③ 局所麻酔薬・抗不整脈薬	80
① 悪心・嘔吐	57	④ NMDA 受容体拮抗薬	81
② 便秘	59	⑤ 中枢性筋弛緩薬	81
9. オピオイドによる副作用と対策—その他の副作用と対策	60	⑥ コルチコステロイド	82
① 眠気	60	⑦ ベンゾジアゼピン系抗不安薬	82
② せん妄・幻覚	60	⑧ ビスホスホネート、デノスマブなどの bone-modifying agents (BMA)	82
③ 呼吸抑制	60	⑨ その他	83
④ 口内乾燥	61	5 麻薬に関する法的・制度的知識	84
⑤ 瘙癢感	61	1. 麻薬の取り扱いに関する一般的事項	84
⑥ 排尿障害	62	① 麻薬免許証	84
⑦ ミオクロウヌス	62	② 麻薬管理	84
⑧ 痛覚過敏	62	③ 麻薬の施用・交付	84
⑨ 心血管系の副作用	62	④ 麻薬の廃棄	84
10. オピオイドに与える影響・薬物相互作用	63	⑤ 麻薬管理における事故・盗難	85
① 薬物相互作用とは	63	2. 麻薬に関するよくある質問	85
② オピオイド使用時に注意すべき相互作用	63	① 病院・診療所での取り扱いについて	85
③ 特にモルヒネ・オキシコドン・フェンタニル・メサドン使用時に注意すべき相互作用	63	② 薬局での取り扱いについて	86
11. 非ステロイド性消炎鎮痛薬使用時に注意すべき相互作用	65	③ 在宅医療での取り扱いについて	87
12. オピオイドと食事の影響	66	④ 麻薬に関する問い合わせ先	88
13. 精神依存・身体依存・耐性	66	6 患者のオピオイドについての認識	89
① 定義	66	1. 患者はオピオイドをどうとらえているか	89
		① オピオイドに対する患者の心配は何か	89
		2. オピオイドの誤解についての医学的真実	92
		① 「オピオイドを使用すると麻薬中毒になる」という誤解	92

4 せん妄	204	2 臨床疑問の設定	273
● オピオイドが投与された患者において、せん妄が発現した時に有効な治療は何か？	204	3 系統的文献検索	273
3 がん疼痛マネジメントにおける患者教育	212	4 ガイドライン	273
● がん疼痛マネジメントを受けている患者に、疼痛マネジメントについて教育を行うことは有効か？	212	5 妥当性の検証	273
4 特定の病態による痛みに対する治療	220	6 緩和医療学会の承認	274
1 神経障害性疼痛	220	7 ガイドライン作成者と利益相反	274
● がんによる神経障害性疼痛に対する有効な治療は何か？	220	2 文献の検索式	277
2 骨転移による痛み	234	1. 2010年版の文献検索式	277
● 骨転移による痛みに対する有効な治療は何か？	234	2. 2014年版の文献検索式	297
3 膵臓がんなどによる上腹部の痛み	239	3 今後の検討課題	298
● 膵臓がんなどによる上腹部の痛みに対する有効な治療は何か？	239	1. 2010年版での今後の検討課題	298
4 胸部の痛み	244	1 2010年版のガイドラインでは、対応しなかったことについて	298
● 胸部の痛みに対する有効な治療は何か？	244	2 背景知識、用語の定義について	298
5 直腸がんなどによる会陰部の痛み	248	3 今後の検討や、新たな研究の必要なこと	299
● 直腸がんなどによる会陰部の痛みに対する有効な治療は何か？	248	2. 2014年版での新たな検討課題	300
6 悪性腸腰筋症候群による痛み	253	1 今回のガイドラインでは、対応しなかったことについて	300
● 悪性腸腰筋症候群による痛みに対する有効な治療は何か？	253	4 海外他機関による疼痛ガイドラインの抜粋	301
7 消化管閉塞による痛み	258	1. 成人のがん疼痛：NCCNの臨床ガイドライン (Web, 2012)	301
● 消化管閉塞による痛みに対する有効な治療は何か？	258	2. がん疼痛に対するオピオイドの使用：エビデンスに基づいたEAPCの推奨 (Lancet Oncol, 2012)	304

IV章 資料

1 作成過程	266	7. がん疼痛のマネジメント：ESMOの臨床的推奨 (Ann Oncol, 2007)	311
1. 2010年版の作成過程	266	8. 肺がんの緩和ケア：エビデンスに基づいたACCPの臨床ガイドライン (Chest, 2007)	312
1 概要	266	ガイドラインプール・リスト	312
2 臨床疑問の設定	266	索引	315
3 系統的文献検索	266		
4 ガイドラインと教科書	266		
5 妥当性の検証	268		
6 緩和医療学会の承認	269		
7 ガイドライン作成者	269		
2. 2014年版の作成過程	272		
1 概要	272		